



和魂 協力する人
行 自主性のある人
進んで行く人

清流

134号

発行：三和中学校PTA

編集：広報委員会

印刷：樹キョクトー

おはよう・笑顔・ありがとう



祖母の背中～優しさとは～

私は幼い頃から祖母の姿を見て育ちました。私達は3人兄弟ですが、その3人を泣き笑いしながら支えてくれたのが祖母でした。特に私は、祖母に育てられたと思っています。祖母は85歳でこの世を去りました。その祖母の言葉で本当に忘れられない言葉がいくつかあります。その一つ、「大きゅうなりんさった。優しい目をしとりんさる。ええ子になりんさいよ。」もう目の前にいる孫が誰であるかわからなくなってしまった時の言葉です。祖母が好きだった黄色のダリアを手に、久しぶりに祖母のもとを訪れた時の言葉です。

30歳を超えた私に声をかけてくれた祖母。私が誰であるかはわからないはずなのに、帰ろうとする私に気づき、涙が頬を伝って落ちました。そして、くると後ろを向いた時、細くて壊れそうな背中が、あまりにも小さくなっていて、私は思わず涙していました。そして、優しくならなければ、もっと周りの人々を大切に思わなければと、心で思っていました。あれからもう何十年もたちます。私は優しくなれているのでしょうか。

私が幼かった頃の祖母の背中がいつも黙っていました。黙っているけれど、いつも人のために、孫の私達のために何かをしている背中でした。それは、腰近くまで積もった雪に向かい、私達の登校のために朝早くから懸命に雪かきをする背中。何度も何度もカラスやイノシシにつつかれ、虫食いのようになったスイカ畑の中で、一生懸命に大きくなり始めたスイカを守るために働く背中。冬の冷たい小川に向かい、大根をイネのたわしてこする背中。そんな背中を見て私は育ちました。祖母には、あれをしんさい、これをしんさいと言われた記憶はほとんどありません。でも、私自身のためにしてもらったことは山ほどありました。いつも、温かく優しい背中でした。そして、あれ以来祖母の背中を見ることはできなくなりました。

口で言うことはたやすいのだと思います。だから、ついつい口で言ってしまう。ああしろこうしろ、ああだこうだ、どうしてなの なんてなのと。

今、保護者の皆様と、もっともっとスクラムを組んで、子ども達に私達の背中を見せていきたいと思っています。あいさつ運動も校内見守り活動も、学校花いっぱい運動も。学校にたくさんの大人の実践する「優しい背中」がもっともっと増えればいいと思っています。

校長 河野 裕二



出会いは挨拶から！ みんなですれば 爽やか気分

21年度のPTA会長を務めさせていただきます、立本裕治です。19年度から3期目となり、今年度が最後の任期となりますがよろしくお願いいたします。三和中PTAでは、「おはよう」「笑顔」「ありがとう」を活動方針とさせていただき、この2年間 皆さまのお力添えのもと、朝の『あいさつ運動』『校内見守り活動』『花一輪活動』などを行ってまいりました。また、単純なフレーズではありますが、生徒と保護者、学校と地域の連携を表す 実践活動として、佐伯区PTA連合会でも取り上げていただいております。三和中の教室や廊下には、生徒や保護者の皆さまに作成していただいたポスターを掲示したり、学年ごとに色分けされたPTAネームタグの配布、生徒デザインによるPTA活動用のベストを作製するなど、様々な活動を行ってまいりました。そして、それを通じて三和中がより明るくハキハキとした学校へと変化したと自負しております。今年度は、さらにバージョンアップを図り、『学校花いっぱい運動』を実践したいと思います。保護者の皆さま、一人ひとりが「私でもほんの少し・・・何かできるかも・・・」こんな気持ちを込めて「おはよう」「ありがとう」とことばを交わし、生徒に「笑顔」があふれる三和中学校にする為に今こそ「大人力」を発揮しましょう。

PTA会長 立本 裕治

